



凡事徹底

当たり前のことを当たり前

蕨市立第二中学校
学校だより
令和7年度
第2号(5月号)



部活動

校長 椿 智絵

爽やかな風が新緑の香りを運ぶ5月がやってまいりました。新年度がスタートして新しいクラスや先生、様々な環境の変化にも少しずつ慣れ、新学年の生活も軌道に乗ってきた様子が見られます。4月10日に行われた対面式では、生徒会活動や委員会活動、そして部活動についての紹介があり、1年生はこれから始まる中学校生活への期待がさらに大きくなったように思えます。本年度の学校生活が本格始動しました。常に、自分や自分たちのなりたい姿をイメージしながら活動を進めてもらいたいと願っております。

さて、4月下旬に部活動一斉部会が行われ1年生も部活動に本入部し、こちらも3学年そろっての活動が始まり活気にあふれています。1年生が先輩たちに混じって一生懸命に活動している姿、1年生の活動を温かく見守り、時に手取り足取り面倒を見ている2・3年生の姿にほほえましさを感じています。

随分と昔のことになってしまいましたが、自分の時のことを思い返してみました。小学生の時に行った学級対抗のバスケットボールの試合で、惨敗し学校代表になれず悔しい思いをしたことがバスケットボールとの出会いでした。その時から中学校へ行ったらバスケ部に入ろうと決めていたように思います。母親からは母が行っていたバレーボール部がかっこいいからという理由で剣道部を勧められましたが、迷わずバスケット部への入部を決めました。当時、自分の通う小学校にはミニバスケットボール少年団のチームがなく、その存在すら知らなかった自分にとって、ミニバス経験者の技術の高さには驚かされました。先生の指示するプレーの意味が分からずぼんやりする自分と違って周りの人たちが元気よく「はい」と返事をし素早く動いていることに面食らっていたように思います。そんな自

分たちに当時の顧問の先生は1年生の部員を集めて言いました。

「ミニバスと中学校から始めるバスケットボールは全く違うものです。バスケットボールとしてのスタートはみな一緒です。経験者、未経験者は関係なくこれからの練習を一生懸命頑張ることが大事です。」

当時の自分は単純だったので、先生の言われた「スタートはみな一緒」を信じ、一生懸命練習に励みました。同級生の中には1年生ながら先輩に混じって試合に出場している人もいましたが、自分は全くの力不足、毎日の練習についていくのに精一杯でした。厳しい練習の毎日でしたが、できることが少しずつ増えていき、試合で活躍できるようにもなり、3年間充実した日々を過ごすことができました。

部活動は、生徒の自主的な活動であり、学校教育の一環として、個人の成長や集団活動を通して得られる学び、社会性の育成など、多岐にわたる意義があります。部活動を通じて、生徒は仲間との絆を深め、責任感や連帯感を養い、スポーツや文化活動を通して、体力や精神力を高めることができます。

部活動の意義は具体的に言うと、個人の成長、集団活動を通しての学び、社会性の育成、体力や精神力の向上、豊かな学校生活、将来への準備、などがあげられます。

本校の部活動も現在は任意加入制となっており、生徒全員が入部しているわけではありませんが、部活動に限らず中学校の時代に何かに夢中になれるものがあるということは素敵なお事だと思います。今、一生懸命に取り組んでいることが将来の自分に役立つ何かになることを信じて頑張りたいと思います。

《学校教育目標》

自ら学び、深く考える生徒	(知)
心豊かで、思いやりのある生徒	(徳)
たくましく、健やかな生徒	(体)

蕨市立第二中学校

電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671

URL：<http://www.warabi.ne.jp/~warabi-2/>

e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp